

編集後記

本号の特集「釣り」は、釣り道具をとりあげてほしいという読者からのお便りに端を発する。釣りは旧石器時代から続いてきた営みだけに、釣りばりの起源や神話から生業、遊興、文学、故事にいたるまで、また場所も元銭湯から溪流、大海原までと幅広い充実した論稿がそろった。思えば現代人にとって、釣りほどヒトが自然に能動的に働きかけ、その結果が即時に、かつ直にわかる活動はないのではないか。

沖縄の粟国島^{あぐにじま きんこしろう}の珊瑚礁の端で釣りをしている印象的な光景を目にしたことがある。ヤマトンチュの小学4年の男児が、魚信を感じた途端にもっていた釣り竿を放り投げ、テグスを両手で手繰りはじめたのだ。リールを巻くことなど頭から吹っ飛び、逃がしてなるものかと必死だったのだろう。釣りの本質はこの男児の反応に凝縮される。細いテグスを介して見えない魚のプルプルという生を感じる興奮と、それを獲りたいという欲望だ。釣りには動物としてのヒトがもつ根源的なエクスタシーが伴うようだ。だとすれば、釣りと一体の営みのはずだった、釣った魚をさばいて味わうことも大切だろう。粟国島での男児は、釣り上げた魚をちゃんと食べていた。(南真木人)

●表紙:アニメ「NieA_7 (ニアアンダーセブン)」のモデルとなった銭湯「荏(え)の花温泉」を改装した「旗の台つりぼり店」(東京都品川区、6頁参照)
(撮影:木名瀬高嗣、2019年)

次号の予告

特集

「食と博物館展示」(仮)

みんぱくをもっと楽しみたい方のために 国立民族学博物館友の会のご案内

友の会は、みんぱくの活動を支援し、博物館を楽しく積極的に活用するためにつくられました。

毎月『月刊みんぱく』をお届けするほか、さまざまなサービスをご用意しております。

維持会員・正会員

『月刊みんぱく』の送付/友の会機関誌『季刊民族学』の送付/本館展示の無料観覧/特別展観覧料の割引/友の会講演会への参加/研究者同行の国内外研修旅行への参加 など

ミュージアム会員

『月刊みんぱく』の送付/本館展示の無料観覧/特別展観覧料の割引/友の会講演会への参加 など

繰り返し入館できる**みんぱくフリーパス**や、学校・学部単位で利用できる**キャンパスメンバーズ**など各種会員種別もご紹介します。目的にあわせてご利用ください。

詳細は、一般財団法人千里文化財団までお問い合わせください。
(電話 06-6877-8893 / 平日9:00 ~ 17:00)



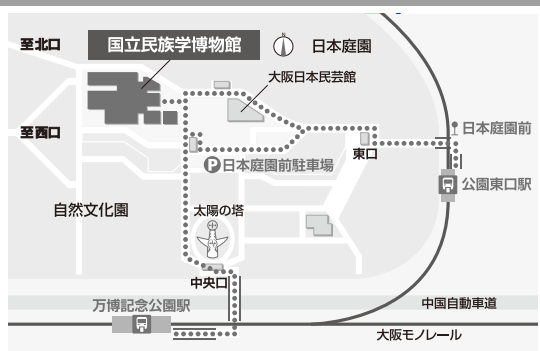
月刊みんぱく 2020年5月号

第44巻第5号通巻第512号 2020年5月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1
電話 06-6876-2151

発行人 園田直子
編集委員 南真木人(編集長) 上羽陽子 齋藤晃
菅瀬晶子 三島禎子 吉岡乾
デザイン 宮谷一欵 長岡綾子
制作・協力 一般財団法人千里文化財団
印刷 株式会社 遊文舎

*本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館広報係にお願いします。
*本誌掲載記事の無断転載を禁じます。



交通案内

- 大阪モノレール「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車、徒歩約15分。
- 阪急茨木駅・JR茨木駅から近鉄バスで「日本庭園前」下車、徒歩約13分。
- 乗用車は、公園内の「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分。「日本庭園前ゲート」横にある当館専用通行口をお通りにください。
- タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れてきます。

みんぱくホームページ

<https://www.minpaku.ac.jp/>

みんぱくフェイスブック

<https://www.facebook.com/MINPAKUofficial>

みんぱくツイッター

<https://twitter.com/MINPAKUofficial>

みんぱくインスタグラム

<https://www.instagram.com/MINPAKUofficial/>

みんぱくYouTube

<https://www.youtube.com/user/MINPAKUofficial>